

教育目標			未来を元気に					
重点目標			(1)未来を元気に生き抜く力の育成 (2)「みんなが活き、活かされる」元気な未来をつくる力の育成					
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的な施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・基礎・基本的な知識、技能を確実に習得させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 ・学習への興味関心を高める授業づくりに努め、学力向上をはかる。	・教科部会で全国学力・学習状況調査の結果を分析・検討し、授業改善に取り組む。 ・兵庫型学習システムを活用し、学力を向上させる。 ・タブレット端末を用いた双方向授業を行い、各教科での授業や課題の工夫をする。	・生徒アンケート、全国学力・学習状況調査において「授業はわかりやすく楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 ・生徒・教職員アンケートともに「今日のねらいが示されている」と回答する割合を80%以上にする。 ・生徒アンケートにおいて「先生は、授業内容・テストで分からない問題や間違えた問題をわかるまで教えてくれる」と回答する割合を80%以上にする。	B	・教職員が一丸となって授業づくり、環境づくりができた。生徒アンケートでは、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が78%、「授業でわかりにくいところを質問しやすい」と回答した割合は75%と昨年度より增加了。 ・「今日のねらいが示されている」と回答する割合は生徒、教職員ともに85%となり、目標を5%上回った。 ・「家庭学習の充実」に関するアンケートでは、生徒・保護者は70%程度、教職員は58%であった。	・学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びのある授業について改めて確認し合う機会を作り、今後の授業づくりについて研究・研修に努めている。 ・家庭学習についての研修会を設けて共通理解を図っていく。	授業のねらいを明確にすることが、目標値を上回っており、教員の意識の高まりを感じる。「授業はわかりやすく楽しい」と回答する割合も80%以上を達成できるよう、継続して取り組んでほしい。
		・ICTを効果的に活用する。 ・英語を活用する力を向上させる。 ・連絡をはじめとする情報発信や、意見集約をオンラインで行う。	・インターネットを使って必要なことを調べ、まとめる機会をつくる。 ・アプリケーションを効果的に活用する。 ・専門委員会をはじめとする特別活動で、タブレット端末を活用させる。 ・日常的に言語活動を行い、英語を活用する力を促進させる。 ・ネットを使って、積極的に情報発信を行う。	・生徒が夢中になって取り組める課題づくりなど、教員のICT活用力を高める。また、教員研修を行う。 ・英語のパフォーマンステストで、80%以上の生徒がB評価を獲得する。 ・ネットを使っての情報発信の機会を増やす。	B	・生徒への質問「ICTを使っての学習によって、教科内容への理解が深まっていると感じる」の肯定的回答が約6割あり、ICTの効果を生徒は実感している。一方で、教師のICT活用能力に個人差があることが課題である。 ・英語の授業において、日頃から言語活動を行うことで、話す・聞くなどの英語の技術を高めることができた。 ・クラウドや委員会、部活動など様々な場面で、ネットを使っての情報発信を生徒に行なった。また、各種アンケートのデジタル化を推進した。一方で、紙媒体と比較すると回答率に課題があった。	・教師間で新しい知識や技術、取り組みを学び合いながら、できることを増やしていく。 ・英語の活用力をより向上させられるよう、さらに言語活動に取り組ませる。 ・教師・生徒・保護者の三者はICTを浸透させられるよう、今後も継続的にICT活用を推進していく。	これから社会で情報活用能力はとても重要である。生徒に有効活用できる力を育めるよう、教員もICTや情報についての活用能力を向上していく必要がある。また、連絡の情報化も進む折、操作方法等についての保護者啓発の方についても検討してもらいたい。
		・豊かな心を育てる道德教育の充実を図る。 ①道徳教育の推進 ②いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けたの組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・ローテーション授業や授業研究を通して、全教員で道徳教育を推進する。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けたの組織的な取組の推進 ・カウンセリングマインドを基本とした生徒指導の充実を図り、不登校生徒数を減少させる。 ・体験活動 兄弟学級の取り組みの趣旨について共通理解を図り、南中の伝統を継承し、情操を養う。	・他者の多様な考えに共感できる、豊かな心を育む道徳の授業を実践する。 ・「いじめはどんな理由があつてもいけないことだと思いますか」の回答を95%以上にする。 ・兄弟学級の取り組みを通して、「行事や授業等において、充実した体験活動になるよう積極的に取り組んでいる」に肯定的に回答する生徒を80%以上にする。	B	・個人ローテーション道徳を行った。研修会を実施し、研究発表において道徳科の授業を公開し、発問を深める授業づくりに、教員全体で取り組んだ。 ・「いじめはいけないとかついている」と回答91%と昨年(87.8%)と比べると大幅に向上した。課題としては、教師と生徒・保護者の回答と差があったことである。 ・行事については、これからも継続的に取り組んでいく。	・道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分事と捉え、向き合っていけるよう道徳科を要とした道徳教育を推進する。 ・教育相談を充実させる。教師のアンテナを高くし、生徒をよく観察する。情報交換を密にして対応していく。 ・行事は主体的に取り組む生徒がほとんどであった。一人一人が活躍できる場面や他学年と関わることのできる機会を増やす。	「いじめ」は絶対に許さないという姿勢のもと、今後も具体例を示した教育を展開するなど、道徳教育を充実させてもらいたい。また、多様な生き方のニーズに合うよう、教育相談を充実させてもらいたい。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・規則正しい生活習慣と食習慣を身につけ、健康管理能力を育成する。	・体育の授業を通して、体力向上を図るとともに自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。 ・授業や行事等を通して、生活習慣や食育の推進を図る。	・新体力テストにおいて、全国平均を7種目以上上回る。 ・生徒アンケートにおいて、「自ら進んで体力づくりに取り組んでいる」項目を、80%以上にする。 ・生徒アンケートにおける「給食は、残さず食べようとしている」項目を80%以上にする。 ・生徒アンケートにおける「保健だよりを通して、心身の健康や生活習慣について考えることができている」項目を80%以上にする。 ・保健アンケートにおいて、「保健だよりを通して、健康管理の推進に努めている」項目を80%以上にする。	B	・生徒アンケートにおける「自ら進んで体力づくりに取り組んでいる」項目は69%であり、目標を下回ったが、体力向上づくりを作成するなど、達成目標に近づけるように取り組んだ。 ・生徒アンケートにおける「給食は、残さず食べようとしている」項目は86%と目標を達成することができた。 ・保健アンケートにおいて、「学校は保健だよりを通して、健康の推進に努めている」項目は96%と目標を達成することはできたが、生徒アンケートにおける「保健だよりを通して、心身の健康や生活習慣について考えることができている」項目は64%であった。	・現状の補強運動に、各学年の体力に応じた補強運動を追加していく。 ・保健だよりを保健委員会を通して周知し、食生活や心身を振り返り、改善することにより、健康的な心と体づくりを目指していく。	新型コロナウイルスの影響から、生徒の体力の状況が懸念される。「自ら進んで体力づくりに取り組んでいる」アンケート項目が徐々に向上しているのは、教員の着実な努力の成果と考える。多様な生徒が存在する中、今後とも、教員のカウンセリング能力の向上や子ども同士がつながる教育の推進等に努めてもらいたい。加えて、中学校生活に応じるような小中連携に期待している。
		・学年に適合したキャリア教育を行う。 ・SC・SSWとの連携 ・教育相談やQUを活用し、生徒理解を深める。	・進路学習資料の活用や地域に学ぶ「トライアーウィーク」を適切に実施し、主体的に進路に向けて選択する力や態度を育成する。 ・教育相談体制をさらに整え、関係機関・SC・SSWとの連携を図る。 ・生徒の実態について共通理解し、教員が連携して組織的かつ継続的に指導する体制を整える。	・生徒アンケートの「将来の目標や夢を持っている」肯定的回答を、全学年昨年度より上回る。 ・生徒アンケートの「先生は相談にのってくれる」肯定的回答を、全学年昨年度より上回る。	A	・「将来の目標や夢を持っている」肯定的回答の各学年の経年比較をしてみると、2年生現状維持、3年生5%上回る結果になった。 ・「先生は相談にのってくれる」肯定的回答は全体として5%上回る結果になった。 ・教育相談の中でSCやSSWに繋げることができた。	・キャリアパスポートの活用改善を図る。 ・より有意義な教育相談ができるように意見交換会や研修を実施する。 ・長欠生への対応の共通理解を図る。	「先生は相談にのってくれる」のアンケート結果が徐々に向上しているのは、教員の着実な努力の成果と考える。多様な生徒が存在する中、今後とも、教員のカウンセリング能力の向上や子ども同士がつながる教育の推進等に努めてもらいたい。加えて、中学校生活に応じるような小中連携に期待している。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・支援体制を整える。 ・特別支援教育の内容を充実する。	・職員会議、研修会等で、配慮を必要とする生徒の情報を全職員で共有する。 ・教育支援委員会をはじめとする各会議において、個別の指導計画の作成と共有を図る。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・全職員が支援を要する生徒についての理解を深めていく。	B	・教育支援委員会において情報共有をすることができた。 ・支援の仕方の目標を作り共通理解を図ることにより、支援の方法や個々の目標が分かりやすくなった。	・特別支援教育巡回相談員を活用し、支援に関するアドバイスをいただく。 ・全職員の特別支援教育に関する知識を高めるため、研修の機会を設ける。	個々のニーズが多様になる中、特別支援教育についての知識を身につけ、実態に応じた対応をしていくことが肝要である。また、教員の人権意識も継続して高めていくことが特別支援教育の充実にもつながる。
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・授業力向上をはじめとする教職員の資質向上を目指した校内研修会を実施する。 ・校内での教科指導やクラス・部活動実績などを共有し、教職員がお互いの資質向上につながる環境作りに努める。(OJT)	・学期に1回の公開授業(表現力スキルアップ授業)を実施する。 ・TPP(教員自主研修)を実施する。 ・夏季研修会の充実を図る。 ・月1回研修会を実施する。	・「教員としての資質向上を意識した職員研修に参加している」に回答する割合を90%以上にする。 ・「教職員は、実践してきた内容をお互いに共有することができている」に回答する割合を80%以上にする。	A	・教員としての資質向上を意識した職員研修に参加している」と回答した割合は、92%であり、意欲的に研修に努めることができた。 ・「教職員は、実践してきた内容をお互いに共有することができている」と回答した割合は81%であり、授業改善につなげることができた。	・課題に対応した各種研修を企画・実施し、研鑽を深める。	教員の資質向上は、教育の質の向上に直結する。様々な研修、教え合いはとても効果的で重要である。今後も、教職員の連携を密にし、資質向上に取り組んでもらいたい。
	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・地域住民や保護者と連携、協働し、課題解決に向けて取り組む。 ・地域の行事に積極的に参加する。	・学校運営協議会、学校補導連絡会で地域との連携を図る。	・学校運営協議会やPTAと連携し、教育活動の活性化を図る。	B	・学校運営協議会やPTAとの連携を深め、生徒たちにとって様々な体験活動の機会を設ける。 ・夏祭りなど、様々な地域行事に進んで参加することができたが、さらに生徒の地域と関わろうとする意識を高める必要がある。	・学校運営協議会やPTAとの連携を深め、生徒たちにとって様々な体験活動の機会を設ける。	体育大会や文化祭等の行事において、連携を進めている。学校運営協議会やPTAの声が生徒の活力につながるよう連携を充実させてもらいたい。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・安全点検を徹底し、安全・安心な学校作りに努める。 ・職員の勤務時間や業務量の適正化を図る。	・避難訓練をはじめとする安全意識高揚のための取り組みを計画・実施する。 ・安全衛生委員会において、勤務時間の適正化の推進を図る。 ・教職員の安全意識を高めるための研修を行う。	・危機管理マニュアルを見直し、避難訓練を実施することで、教職員・生徒の安全意識を高め、学校全体で安全教育を行う。 ・記録簿を用いて、勤務時間を客観的に把握する。 ・「避難訓練や防災学習で、安全意識を高めることができている」に回答する割合を80%以上にする。	B	・生徒の実態に応じて、避難訓練の方法を見直し、実施することで実効性のあるものにできた。 ・定期退勤日の設定と見える化ができた。 ・「避難訓練や防災学習で、安全意識を高めることができている」に回答する割合を80%以上にする。	・教職員が円滑かつ確かな対応を図ることができるよう、危機対応マニュアルの検討、及び見直しを徹底する。 ・ワークライフバランスの実現に向けて、働きやすい職場づくりを推進する。 ・安全点検の実施に加え、消防署の協力のもと生徒、職員対象の研修を実施できた。 ・生徒の防災・安全意識を高める必要がある。	消防署から講師を呼んでの研修の実施や休憩時間に想定した避難訓練の実施など新たな取り組みを実施したと報告を受けた。 安心・安全な学校づくりをため、今後も協議しながら、実際の災害等を想定した訓練等に取り組んでもらいたい。

学校関係者評価総括

学校の取組は熱心である。行事や授業参観した際、一生懸命頑張っている生徒も多い。また、学校評価についても生徒アンケートで改善されている項目が多くあることも評価できる。今後も、生徒一人一人の人権を大切にし、教職員一丸となって生徒に「生きる力」を育んでいってもらいたい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・アンケート結果や学力テスト、体力テストなどのエビデンスに基づいた目標設定や改善に向けた協議を行ってもらいたい。
- ・生徒側の立場を考えることを忘れず、他者視点を大切に考察してもらいたい。
- ・生徒に活動させた後、どのような評価(言葉がけ)をするかが大切である。言葉を精選し、教員の資質向上に努めてもらいたい。